



大分県深島近海から得られた九州東岸初記録のシノノメツノカサゴ

松本達也¹・星野和夫²・本村浩之¹

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
TM: k8476135@kadaai.jp (corresponding author)
HM: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp
² 大分マリンバレス水族館「うみたまご」（大分市）
k-hoshino@umitamago.jp

Received 11 August 2026
Revised 14 August 2026
Accepted 14 August 2026
Published 16 August 2026
DOI 10.34583/ichthy.70.0_20

Tatsuya Matsumoto, Kazuo Hoshino and Hiroyuki Motomura. 2026. First eastern Kyushu record of *Pteroidichthys noronhai* (Scorpaenidae) from Fuka-shima island, Hyuga-nada sea, Oita Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 70: 20–24.

Abstract

A single specimen (48.1 mm standard length) of the Noronha's Scorpionfish *Pteroidichthys noronhai* (Fowler, 1938) (Scorpaenidae), distributed in the Indo-West Pacific, was collected from Fuka-shima island, Hyuga-nada sea, Oita Prefecture, eastern Kyushu, Japan. In Japanese waters, *P. noronhai* has been reliably recorded from the Sea of Japan (Hyogo Pref., Honshu), Tosa Bay (Kochi Pref., Shikoku), and the East China Sea. Therefore, the presently reported specimen, described herein in detail, represents the first record of *P. noronhai* from eastern Kyushu.

フサカサゴ科ツノカサゴ属 (Scorpaenidae: *Pteroidichthys* Bleeker, 1856) は体幅が体長の 10–24% であること、体高が体長の 28–40% であること、背鰭棘が 12 本であること、口蓋骨歯をもたないこと、耳棘をもつこと、上後側頭棘を欠くこと、体が円鱗に覆われること、胸鰭下部の数軟条が肥大せず糸状にもならないこと、および尾鰭下部に黒斑をもたないことなどの特徴により同科他属と識別され、国内からはツノカサゴ *P. amboinensis* Bleeker, 1856 とシノノメツノカサゴ *P. noronhai* (Fowler, 1938) の 2 種が記録されている (Motomura and Kanade, 2015).

2000 年 7 月 5 日に日向灘北部に位置する大分県深島近海から得られた本属魚類の 1 標本がシノノメツノカサゴに同定された。本種はインド・西太平洋に広く分布するが、

国内からはこれまで本州・四国の沿岸と東シナ海から、散発的な記録のみが知られており、九州東岸からの本種の記録はなかった (Motomura and Kanade, 2015; Matsunuma et al., 2025)。したがって、大分県深島から得られた標本は、九州東岸における本種の初めての記録となるためここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は、Motomura (2004a, b), Motomura et al. (2005, 2006, 2012), および Motomura and Johanson (2006) にしたがった。頭部の棘の名称は尼岡 (1984) と本村ほか (2004) にしたがった。体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。生鮮時の体色の記録は、ホルマリン固定の前に撮影された標本のカラー写真に基づいて記載した。標本の作製、登録、撮影、および固定は本村 (2009) と同様の方法を用いた。本研究に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館に保管され、上記の生鮮時の写真は同館データベースに登録されている。本研究で用いた研究機関略号は FAKU (京都大学総合博物館), KAUM (鹿児島大学総合研究博物館), および ZUMT (東京大学総合研究博物館) である。

Pteroidichthys noronhai (Fowler, 1938)

シノノメツノカサゴ

(Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 225424, 体長 48.1 mm, 大分県佐伯市蒲江蒲江浦 深島近海 (32°42'N, 131°55'E), 水深 100 m, 底曳網, 2000 年 7 月 5 日, 星野和夫。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。頭部と体は強く側扁する。体背縁は吻端から背鰭第 4 棘基部にかけて上昇し、そこから尾柄にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎前端から腹鰭起部にかけて緩

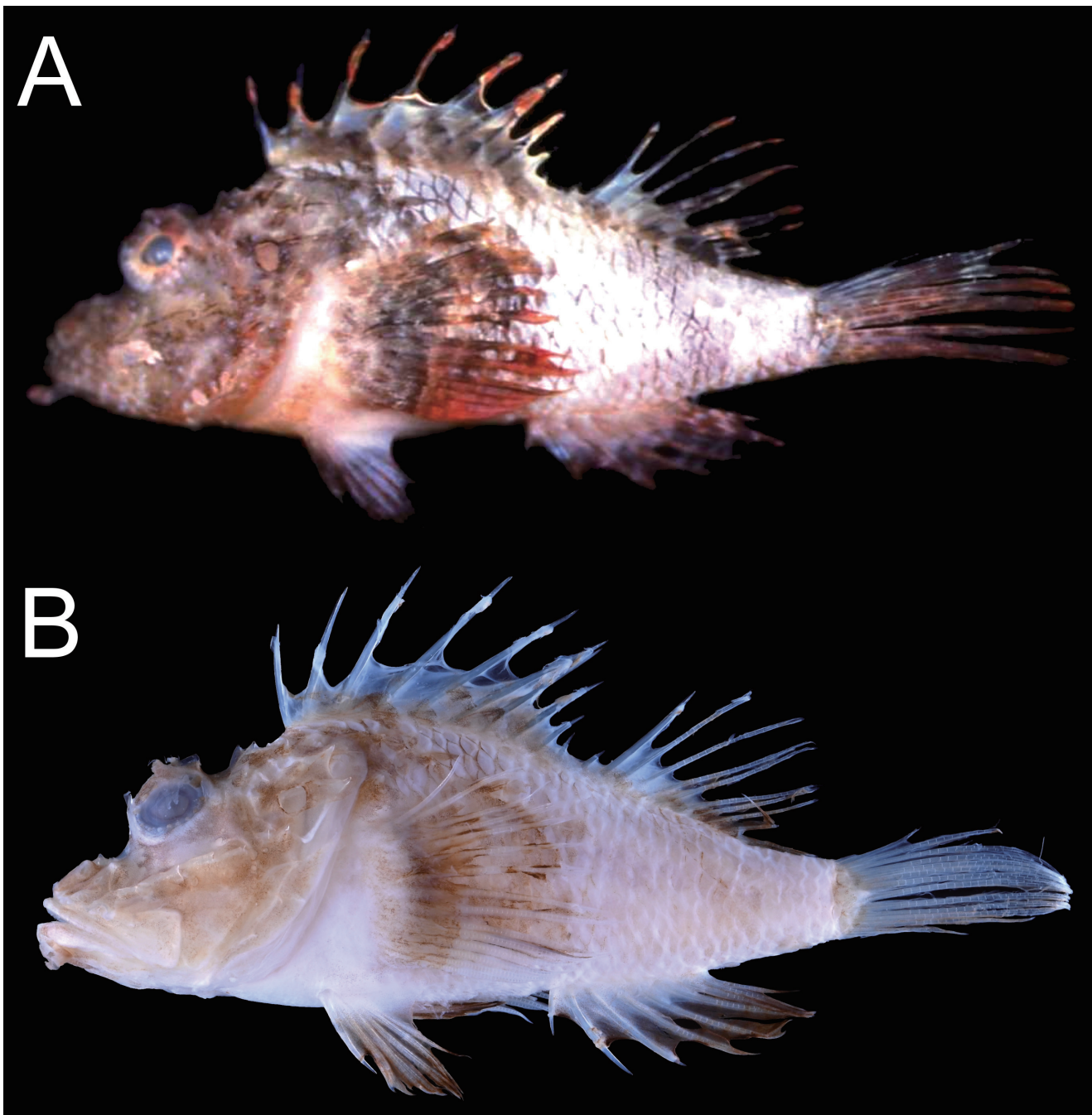


Fig. 1. Photographs of *Pteroidichthys noronhai* (KAUM-I. 225424, 48.1 mm SL, A: fresh specimen; B: preserved specimen) from Fuka-shima island, Hyuga-nada sea, Oita Prefecture, Japan.

やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけて僅かに凹んだのち、臀鰭起部から尾柄にかけて緩やかに上昇する。体高は背鰭第4棘基部において最大となる。下顎先端は上顎先端よりも僅かに前方へ突出する。眼は正円形、瞳孔は前後方向へやや長い楕円形。眼球表面の周縁部には、複数の乳頭状突起が並ぶ。頭部の前鼻孔、眼上棘基部、下顎腹面、および後涙骨下縁棘基部にはそれぞれ葉状で不分枝の皮弁をもつ。眼上棘と後涙骨下縁棘の皮弁の長さは眼窩径よりも短い。吻部背縁は湾曲して盛り上がり、鼻棘より後方では大きく窪む。鼻孔は2対で近接し、眼窩の直前に位置する。鼻棘は単尖頭で、先端は露出する。眼窩の上方は頭部背面に張り出す。眼隔域中央隆起は眼前棘付近を起点とし、眼

後棘のやや後方で終わる。眼前棘、眼上棘、眼後棘、耳棘、頭頂棘、および頸棘はすべて単尖頭。額棘はない。耳棘基部から頭頂棘基部にかけて後頭窩がある。頭頂棘と頸棘の基部は癒合する。蝶耳棘はない。翼耳棘は単尖頭。眼窩後棘はない。上後側頭棘はない。下後側頭棘は単尖頭できわめて小さい。上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方棘、および主鰓蓋骨下方棘は単尖頭。口裂は体軸に対して約20°の角度で傾斜する。口蓋骨歯はない。主上顎骨側面には不明瞭な1隆起線をもち、その後端は瞳孔の中央直下よりやや後方に位置する。涙骨側棘は単尖頭。涙骨側棘先端と第1眼窩骨棘先端の間の長さは、眼窩骨第1・第2棘先端の間の長さとはほぼ同長。涙骨隆起上に3本の眼窩骨棘がある。眼下縁窩

はない。前涙骨下縁棘は小さく、前下方を向く。後涙骨下縁棘は単尖頭で、下方を向く。前鰓蓋骨後縁に後方もしくは後下方を向く5本の前鰓蓋骨棘がある。前鰓蓋骨第1棘の基部には付属棘がある。頭部と体の表面の鱗の多くは脱落しているが、胸鰭の裏側や鰓蓋膜の裏側、腹部に残存する鱗はいずれも円鱗。背鰭起部は鰓孔後端より前方に位置し、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より僅かに後方に位置する。背鰭棘は硬質。背鰭棘条部の鰭膜の先端部は欠損して

いる。背鰭棘は第1棘から第5棘にかけて徐々に長くなり、第5棘から第11棘にかけて徐々に短くなる。背鰭軟条部の鰭膜の先端部は欠損している。背鰭の第1–3軟条は2つに分枝しており、第4軟条以降は先端部が欠損しているため分枝は確認できない。臀鰭起部は背鰭第10棘基底直下に位置し、臀鰭基底後端は背鰭第8軟条基底直下に位置する。臀鰭棘は第1棘から第3棘にかけて徐々に長くなる。臀鰭の棘条部と軟条部の鰭膜はいずれも浅く切れ込む。臀

Table 1. Counts and measurements of *Pteroidichthys noronhai*.

	This study KAUM-I. 225424	Motomura and Kanade (2015) <i>n</i> = 43
Standard length (SL; mm)	48.1	14.5–55.6
Counts		
Dorsal-fin rays	XII, 9	XII, 9
Pectoral-fin rays (left / right sides)	15 / 15	14–16
Anal-fin rays	III, 5	III, 5
Scale rows in longitudinal series	—	36–39
Pored lateral-line scales	—	18 or 19
Scale rows above lateral line	—	3 or 4
Scale rows below lateral line	—	11 or 12
Scale rows between last dorsal-fin spine base and lateral line	—	3–5
Pre-dorsal-fin scale rows	—	2 or 3
Gill rakers (upper + lower)	4 + 9 = 13	4–5 + 8–9 = 12–14
Measurements (as % of SL)		
Body depth	33.1	27.6–38.5
Body width	21.0	15.6–24.4
Head length	44.1	39.6–48.6
Snout length	15.0	13.5–16.9
Orbit diameter	10.4	7.4–13.9
Interorbital width at middle of eye	6.9	4.7–8.3
Upper-jaw length	20.6	19.0–24.0
Postorbital length	20.2	15.4–22.7
Pre-dorsal-fin length	36.4	35.9–41.5
Pre-anal-fin length	63.2	61.9–73.7
Pre-pelvic-fin length	33.3	33.0–47.2
1st dorsal-fin spine length	14.6	7.6–13.7
2nd dorsal-fin spine length	18.7	11.9–20.6
3rd dorsal-fin spine length	22.0	11.4–26.4
4th dorsal-fin spine length	25.8	14.9–27.9
5th dorsal-fin spine length	27.0	16.7–28.9
6th dorsal-fin spine length	24.3	13.6–26.9
7th dorsal-fin spine length	19.3	12.7–22.3
8th dorsal-fin spine length	16.0	10.3–17.9
9th dorsal-fin spine length	9.8	5.1–13.6
10th dorsal-fin spine length	5.6	3.1–7.6
11th dorsal-fin spine length	4.8	2.9–7.5
12th dorsal-fin spine length	17.9	12.2–19.7
Longest dorsal-fin soft ray length	26.8	16.1–28.9
1st anal-fin spine length	7.3	4.1–8.5
2nd anal-fin spine length	14.1	8.9–14.8
3rd anal-fin spine length	17.3	7.9–18.0
Longest anal-fin soft ray length	22.0	16.0–26.1
Pectoral-fin length	32.2	22.2–32.5
Pelvic-fin spine length	13.7	10.8–15.4
Longest pelvic-fin soft ray length	22.9	13.1–24.0
Caudal-fin length	33.9	21.4–39.8
Caudal-peduncle length	19.1	10.3–17.9
Caudal-peduncle depth	10.0	8.3–14.0
Maxillary depth	6.7	6.0–8.4
Supraocular tentacle length	6.4	3.3–24.1

鰭軟条はいずれも2分岐する。尾鰭は円形を呈する。胸鰭基底はおおむね背鰭第4棘基底直下に位置する。胸鰭後端は丸く、第9軟条が最長でその先端は背鰭第1軟条基底直下に位置する。胸鰭第2–7軟条はいずれも2分岐しており、その他の軟条は全て不分岐。胸鰭下部の軟条は肥大せず、糸状にもなっていない。腹鰭起部は胸鰭基底直下よりやや前方に位置し、腹鰭第5軟条は体腹面と鰭膜により繋がる。腹鰭軟条は全て2分岐している。

色彩 生鮮時 (Fig. 1A) — 体側と頭部背縁の鱗の表面の地色は赤褐色、鱗が脱落している箇所の地色は白、頭部腹縁の地色は淡褐色を呈する。頭部から生じる皮弁は赤褐色もしくは淡褐色を呈する。背鰭の鰭膜はおおむね褐色もしくは白色半透明で、棘条と軟条の先端付近は鮮やかなオレンジ色を呈する。臀鰭、尾鰭、および腹鰭の鰭膜は赤褐色もしくは白色半透明を呈し、顕著な斑はない。胸鰭の鰭膜は茶褐色か赤褐色を呈する。

固定後 (Fig. 1B) — 下顎腹面を除く頭部の大部分は褐色から茶褐色を呈し、目立った斑などはない。体側の鱗の表面は茶褐色を呈し、鱗が脱落している部分は茶色がかった白色を呈する。下顎先端付近を除く頭部・体部の腹面は鱗の有無に関わらず一様に白色、下顎先端付近は淡い褐色を呈する。背鰭の鰭膜は通常褐色もしくは白色半透明を呈する。臀鰭の鰭膜は基底付近において白色半透明を呈し、縁辺付近は赤褐色を呈する。尾鰭の鰭膜は白色半透明で、顕著な斑はない。胸鰭の鰭膜はおおむね、基底に近い半分は茶褐色を呈し、縁辺側の半分は白色半透明を呈する。腹鰭の鰭膜は基部付近において白色半透明を呈し、縁辺付近は赤褐色を呈する。

分布 本種はサヤ・デ・マルハ・バンク (南西インド洋)、日本、台湾、香港、ベトナム、フィリピン、オーストラリア北西部、およびバヌアツから記録されている (Fowler, 1938; Chen and Liu, 1984; Mandrytsa, 2002; Motomura and Kanade, 2015; Chou et al., 2024)。国内においては兵庫県浜坂、土佐湾、および東シナ海大陸棚域から確実な記録があり (Motomura and Kanade, 2015)、不確実であるものの1942年以前におそらく神奈川県から得られたとされる標本が、東京大学総合研究博物館に所蔵されている (Matsunuma et al., 2025)。また、Motomura and Kanade (2015) が報告した FAKU 73099 (体長 55.6 mm) や、Matsunuma et al. (2025) が報告した ZUMT 65140 (体長 38.0 mm) は東シナ海産であることが判明しており、詳細な採集地点は不明である。

備考 記載標本は臀鰭が3棘5軟条であること、背鰭棘が硬質であること、吻長が後頭長よりも短く体長の15.0%であること、主上顎骨後端が瞳孔の中央直下より後方に達すること、涙骨側棘先端と第1眼窩骨棘先端の間の長さが、眼窩骨第1・第2棘先端の間の長さと同様

であること、第1前鰓蓋骨棘基部に付属棘をもつこと、眼上棘と後涙骨下縁棘から生じる皮弁が眼窩径よりも短いこと、および体部と鰭の表面に皮弁が少ないことが、Motomura and Kanade (2015) の示したシノノメツノカサゴ *Pteroidichthys noronhai* の特徴とよく一致したことから、本種に同定された。なお、Motomura and Kanade (2015) は背鰭軟条部に明瞭な黒斑をもたないことも本種の標徴としているが、記載標本は背鰭軟条部の鰭膜の大部分を欠損していたためこの形質を確認することはできなかった。また、記載標本の各計測値は背鰭第1棘長と尾柄長を除いて Motomura and Kanade (2015) で示されたシノノメツノカサゴの計測値の範囲内に含まれた (Table 1)。背鰭第1棘長と尾柄長についても、先行研究に示された値との差異はいずれも僅かであることから、本研究ではこれを種内変異とみなした。

シノノメツノカサゴは主に水深50–215 mの砂底に生息するとされている (Motomura and Kanade, 2015)。記載標本も水深100 m (底曳網で漁獲されたため、海底環境はおそらく転石のない平坦地形) から採集された。なお、記載標本と同時に採集されたフサカサゴ科魚類のヤブサメカサゴ *Neomerinthe erostris* (Alcock, 1896) [KAUM-I. 300189, 松本ほか (2023) により報告] も、砂泥底に好んで生息するとされる (Poss and Motomura, 2022)。

シノノメツノカサゴの国内における記録は「分布」の項において記述したとおりであり、九州東岸から得られた本種の記録はこれまで知られていない。よって、本研究で報告した大分県深島産の標本は、同海域における本種の分布を証明する初めての記録となる。

謝 辞

鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の金井聖弥氏には、標本の登録においてご協力いただいた。Ichthy 編集委員の古橋龍星氏と匿名の査読者からは原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に対して謹んで感謝の意を表する。本研究の一部は鹿児島大学博士研究員支援プログラム (KU-DREAM)、公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科, p. 296. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀

- 忠一・上野輝彌・吉野哲夫（編）日本産魚類大図鑑（解説）．東海大学出版会，東京．
- Chen, L.-C. and W.-Y. Liu. 1984. *Pteroidichthys amboinensis*, a scorpaenid fish new to Taiwan, with a description of the species and a discussion of its validity. *Journal of Taiwan Museum*, 37: 101–103.
- Chou, T.-K., W.-C. Huang, W.-C. Jhuang and T.-Y. Liao. 2024. Checklist and DNA barcoding of the Scorpaenidae (Teleostei: Scorpaeniformes) in Taiwan. *ZooKeys*, 63: 1–18.
- Fowler, H. W. 1938. Descriptions of new fishes obtained by the United States Bureau of Fisheries steamer “Albatross”, chiefly in Philippine seas and adjacent waters. *Proceedings of the United States National Museum*, 85: 31–135.
- Mandrytsa, S. A. 2002. New records of rare scorpaenids fishes from the genera *Pteropelor* and *Rhinopias* (Scorpaenidae) in the Indian and western Pacific Oceans. *Journal of Ichthyology*, 42: 544–547.
- 松本達也・星野和夫・本村浩之．2023．土佐湾と日向灘北部から得られた分布北限かつ国内2例目のヤブサメカサゴ．*Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 30: 6–10.
- Matsunuma, M., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Fujiwara, D. Oyama, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2025. List of specimens of the families Neosebastidae and Scorpaenidae (Actinopterygii: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo. *The University Museum, the University of Tokyo Material Reports*, 139: 47–64.
- Motomura, H. 2004a. New species of scorpionfish, *Scorpaena cocosensis* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from the Cocos Islands, Costa Rica, eastern Pacific Ocean. *Copeia*, 2004: 818–824.
- Motomura, H. 2004b. Revision of the scorpionfish genus *Neosebastes* (Scorpaeniformes: Neosebastidae) with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 37: 1–76.
- 本村浩之．2009．魚類標本の作製と管理マニュアル．鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島．70 pp.
- Motomura, H., R. Causse and C. D. Struthers. 2012. *Phenacoscorpius longilineatus*, a new species of deepwater scorpionfish from the southwestern Pacific Ocean and the first records of *Phenacoscorpius adenensis* from the Pacific Ocean (Teleostei: Scorpaenidae). *Species Diversity*, 17: 151–160.
- Motomura, H. and J. W. Johnson. 2006. Validity of the poorly known scorpionfish, *Rhinopias eschmeyer*, with redescrptions of *R. frondosa* and *R. aphanes* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Copeia*, 2006: 500–515.
- Motomura, H. and Y. Kanade. 2015. Review of the scorpionfish genus *Pteroidichthys* (Scorpaenidae), with descriptions of two new species. *Zootaxa*, 4057: 490–510.
- Motomura, H., P. R. Last and M. F. Gomon. 2006. A new species of the scorpionfish genus *Maxillicosta* from the southeast coast of Australia, with a redescription of *M. whitleyi* (Scorpaeniformes: Neosebastidae). *Copeia*, 2006: 445–459.
- Motomura, H., P. R. Last and G. K. Yearsley. 2005. *Scorpaena bulacephala*, a new species of scorpionfish (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from the northern Tasman Sea. *Zootaxa*, 1043: 17–32.
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人．2004．日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: *Scorpaenopsis*) の分類学的検討．*魚類学雑誌*, 51: 89–115.
- Poss, S. G. and H. Motomura. 2022. Scorpaenidae, scorpionfishes and lionfishes, pp. 506–549. In: Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) *Coastal fishes of the western Indian Ocean*. Vol. 2. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda.